

タイトル	退職にあたって
著者	上杉, 忍; UESUGI, Shinobu
引用	北海学園大学人文論集(56): 19-32
発行日	2014-03-31



上杉 忍教授

退職にあたって

上 杉 忍

今、私は、37年の教員生活を振り返り、今後に夢を膨らませ、同時にさみしさを味わっています。もう教壇に立たないこれからの生活が想像できません。4年前、この大学に来たとき、ここが私の最後の職場になるとは実感していませんでした。しかし、まもなく、ここで最後の「悔いのない教育」をしようという気持ちが強くなっていきました。『アメリカ黒人の歴史』（中公新書、2013年）を出版したのもそんな気持ちからでした。

私は、授業で一つの工夫を試みました。ゼミでは、その日の発表内容に対して、「どんな『馬鹿な』質問でも構わない」として、全員が一つ以上の質問を作るよう強制しました。ビクついていた学生たちも思いつきの苦し紛れの質問を始めました。アメリカの地図を見て、「アメリカの州の境目は何故こんなに真っ直ぐなんですか」という質問にみんなはドッと笑いました。「どうして笑うんだい。これはとても大事な疑問なんだよ」と、アメリカの州の編成が歴史的にどのようにして行われたかについて説明すると、そのあとは、次から次へと「馬鹿な」質問が続き、自由な発言が増え、学生たちの間に充実感が広がりました。

講義では、「質問を書いていないカードは欠席扱いだ」として、出席カードに必ず質問を書くように強制しました。毎週100人弱の質問カードを読み、基本的にすべて解答するのは、ちょっと時間がかかりましたが、その質問を読み、答える作業の楽しさを考えれば、大変ではありませんでした。そして、毎回A4で6枚ほどの解答を全学生に送信しましたが、学生たちは、なかなか読んでくれませんでした。そこで、授業でこれを説明する時間を取るようにすると、学生たちが、驚くほど熱心に聞いてくれ、友達の質問にも興味が持てたし、内容の理解が進んだという感想を書いてくれ

ました。何はともあれ、私は、この授業実践に確かな手ごたえを感じることができました。

もう一つ。今の学生たちにはゆっくり自分たちだけで議論する余裕がないことを考えると、ゼミはただ学習する場だけではなく、交流の場を作るきっかけにもなる必要があることを、私は近年、実感しました。ゼミでは、学生たちに雑談する余裕を与えることが大切です。ときどき教師が雑談に介入し、問題を見つけ出し、議論し合えるような話題に導いていくことが、とても有益であることに気がつきました。彼らは教師が、何かを教えようとする途端に「従順で無気力な」学生の眠つきに変わってしまいます。その眠を「力のある眠つき」に変えさせることができた瞬間をこの大学で少しでも経験できたことを私はとてもうれしく思っています。

私は、最後の最後になって、「もう少し」やりたいと思うようになっていくのですが、おいしい料理は、「もう少し」と思うところでやめるのが、一番の思い出になるとのこと。ここでは「おいしかったよ」と皆さんに伝えることで満足したいと思います。

略 歴

上杉 忍 1945 年 8 月 5 日生

学 歴

- 1969 年 3 月 東京都立大学人文学部卒業
- 1971 年 3 月 東京都立大学大学院人文科学研究科史学専攻修士課程修了
- 1976 年 3 月 一橋大学大学院社会学研究科社会学専攻博士課程単位修得
- 1997 年 3 月 博士号（一橋大学，社会学）取得

職 歴

- 1976 年 10 月 静岡大学人文学部専任講師
- 1979 年 4 月 同上 助教授
- 1989 年 4 月 同上 教授
- 1993 年 4 月 横浜市立大学文理学部・国際文化研究科大学院教授
- 1995 年 4 月 横浜市立大学国際文化学部・国際文化研究科大学院教授
- 2004 年 4 月 公立大学法人横浜市立大学国際総合科学部教授
- 2010 年 4 月 北海学園大学人文学部教授
- 1978 年 一橋大学社会学部非常勤講師
- 1987 年 新潟大学人文学部非常勤講師
- 1991 年 同上
- 1993 年 静岡大学人文学部非常勤講師
- 1994 年 日本大学大学院国際関係論研究科非常勤講師
- 1996 年 日本大学国際関係学部非常勤講師，
茨城大学人文学部非常勤講師，
山梨大学教育学部非常勤講師
- 1997 年 フェリス女学院大学非常勤講師

1999 年	新潟大学人文学部非常勤講師， 静岡大学人文学部非常勤講師
2006 年	静岡大学人文学部非常勤講師
2007 年	東北大学国際文化研究科大学院非常勤講師

主な研究業績

著書

1. 『パクス・アメリカーナの光と陰：アメリカ合衆国史(3)』（講談社現代新書，1989 年）B 6 版，237 頁。
2. 『アメリカ南部黒人地帯への旅 — 黒人運動の源流をたずねて —』（新日本出版社，1993 年），176 頁。
3. 『公民権運動への道 — アメリカ南部農村における黒人のたたかい』（岩波書店，1998 年），315 頁。
4. 『二次大戦下の「アメリカ民主主義」 — 総力戦の中の自由』（講談社選書メチエ，2000 年），238 頁。
5. 『アメリカ黒人の歴史 — 奴隷貿易からオバマ大統領まで』（中公新書，2013 年 3 月 25 日）236+iv 頁。

翻訳

1. 共訳・ガブリエル・コルコ著「20 世紀アメリカにおける権力」『現代と思想』14 号，1973 年 12 月 15 日，131-143 頁。
2. 共訳『アメリカの歴史』（本田創造監訳，全 6 巻，三省堂，1996 年，Mary Beth Norton et al., *A People and a Nation*, 3rd and 4th edition, 1990, 1994.) 担当：14 章後半，15 章，16 章，20 章前半，25 章，26 章，28 章，33 章。
3. 共訳『アメリカ南部に生きる — ある黒人農民の世界』Theodore Rosengarten, *All God's Dangers: The Life of Nate Shaw*, Alfred A. Knopf, 1974（上杉忍・上杉健志共訳，彩流社，2006 年），586 頁+18 頁。

4. アンジェラ・デイヴィス著『監獄ビジネス ― グローバリズムと産獄複合体』Angela Y. Davis, *Are Prisons Obsolete?* Seven Stories Press, 2004 (岩波書店, 2008 年), 157 頁。

論文

1. 「アメリカ右翼・ファシズム運動研究序説 ― 参戦過程の非米活動委員会をめぐって ―」『人文学報(東京都立大学人文学部)』第 89 号, 1972 年 3 月, 341-403 頁。
2. 「ジェイムズ・S・アレン著『合衆国における黒人問題』(James S. Allen, *The Negro Question in the United States*, 1936) をめぐって」『一橋論叢』第 71-6 号, 1974 年 6 月, 706-712 頁。
3. 「アメリカ南部棉作プランテーション地域における農民・農業労働者のたたかい(1931-1936 年)」『歴史学研究』第 426 号, 1975 年 11 月, 1-15 頁。
4. 「日本における黒人史研究の歩み」『一橋研究』第 30 号, 1975 年 12 月, 179-191 頁。
5. 「合衆国南部農村の貧困問題と農場保障局 (Farm Security Administration) の政策」『人文論集(静岡大学人文学部)』第 28 号-1, 1977 年 9 月, 45-68 頁。
6. 「アメリカ合衆国における黒人参政権の剥奪 ― アラバマ州憲法会議(1901 年)の検討を中心に ―」『人文論集(静岡大学人文学部)』第 29 号, 1978 年 12 月, 57-86 頁。
7. 「故菊池謙一さんのアメリカ史研究について」『アメリカ史研究』第 2 号, 1979 年, 41-49 頁。
8. 「“読み違え”に基づく書評 ― 福本保信氏の E・ウィリアムズ著・川北稔訳『コロンプスからカストロまで』(岩波現代選書, 1978 年)に対する書評(『歴史学研究』466 号)について ―」『人文論集(静岡大学人文学部)』第 31 号, 1980 年 12 月, 1-13 頁。
9. 「ニューヨークでの反核運動」『歴史学研究』第 509 号, 1982 年 10 月, 43-48 頁。

10. 「アメリカにおける核凍結運動」『歴史地理教育』第 324 号, 1982 年 11 月, 54-59 頁。
11. 「最近のアメリカ共産党研究の動向」『アメリカ史研究』第 6 号, 1983 年 8 月, 58-64 頁。
12. 「シェアクロッパーズ・ユニオン研究の先駆者ジョン・ビーチャーの生涯」『人文論集(静岡大学人文学部)』第 34 号, 1983 年 12 月, 1-25 頁。
13. 「アメリカにおける最近の黒人研究 —— 奴隷制, 黒人家族論, シェアクロッピングに関する研究を中心として ——」『アメリカ史研究』第 8 号, 1985 年 8 月, 11-17 頁。
14. 「1935 年アラバマ州ラウンズ郡における棉つみストライキについて」『西洋史学』第 143 号, 1986 年 12 月, 1-17 頁。
15. 研究動向「アメリカ史研究創立 12 周年を迎えて」『アメリカ史研究』第 10 号, 1987 年, 56-60 頁。
16. 「アメリカ共産党とシェアクロッパーズ・ユニオンの成立 —— 1931 年 7 月キャンプ・ヒル事件を中心に ——」『歴史評論』第 448 号, 1987 年 8 月, 21-42 頁。
17. 「アメリカにおけるオーラル・ヒストリーの現状とその成果」『事実の検証とオーラル・ヒストリー』(歴史学研究会編・青木書店, 1988 年), 140-170 頁。
18. 「学生非暴力調整委員会 (SNCC) 関連資料について」『1960 年代のアメリカ合衆国における多人種社会構成と民衆運動に関する総合研究』昭和 61-62 年度科学研究費補助金(総合研究 A)研究成果報告書, 1988 年 3 月, 2-8 頁。
19. 「黒人解放の思想と運動」『アメリカ社会史の世界』(本田創造編, 三省堂, 1989 年), 3-26 頁。
20. 「米西戦争と黒人 —— 帝国主義戦争の先兵にされたアメリカ黒人の抵抗と苦悩」『(静岡大学人文学部)人文論集』39 号, 1989 年 1 月, 83-116 頁。
21. 「1932 年 12 月リールタウン事件に見るシェアクロッパーズ・ユニオン

- と黒人農民の実像——独立自尊の黒人農民ネッド・コップの証言から
見えてくるもの——」『人文論集（静岡大学人文学部）』第42号，1992
年1月，81-127頁。
22. 「シェアクロッパーズ・ユニオンの白人オルガナイザー，クライド・ジョ
ンソンの人間形成——その半生涯(1908年-1934年)」『（静岡大学人文
学部）人文論集』43号-2，1993年1月，153-196頁。
23. 「米国における黒人運動と文化的多元主義への道」『南北アメリカの
500年：第5巻，統合と自立』（歴史学研究会編，青木書店，1993年），
184-211頁。
24. 「黒人公民権運動以後のアメリカのマイノリティ・グループ」『最近
の世界の動きⅥ』（山川出版，1996年4月），11-18頁。
25. 「1997年の歴史学界，回顧と展望，北アメリカ（後半）」『史学雑誌』第
107編 第5号 1998年5月
26. “Comments on James T. Patterson, ‘America’s Grand Expectations
since 1945,’” *Proceedings of the Kyoto American Studies Summer
Seminar*, July 30-August 1, 1998, Center for American Studies,
Ritsumeikan University, Kyoto, March 1999, pp.19-23.
27. “Difficult Circumstances of African American Sharecroppers to
Organize Themselves for Their Advancement: Comparative Study
of African American Sharecroppers and Japanese Tenant
Farmers,”『国際文化研究紀要』*International Cultural Studies*, Yoko-
hama City University, Graduate School of International Cultural
Studies, No.5, October 1999, 1-16頁。
28. 「肌の黒いわれわれもアメリカ人だ——アフリカ系アメリカ人の歴史」
『アメリカの歴史——テーマで読む多文化社会の夢と現実』（有賀夏
紀・油井大三郎編，有斐閣アルマ，2003年1月）119-140。
29. 「文明と野蛮——アメリカ南部史の脈絡でブッシュの先制攻撃を考え
る」『アメリカよ！』（猿谷要編・弘文堂，2003年6月），16-23頁。
30. 「アメリカ『帝国』のナショナリズム・イデオロギー——膨張国家アメ

リカの論理とその限界』『ナショナリズムと戦争』（後藤道夫・山科三郎編、シリーズ 戦争と現代、第4巻、大月書店、2004年6月）77-122頁。

31. 解説と翻訳「差別なき社会への夢と現実をめざして——ワシントン行進とマーチン・ルーサー・キング・ジュニアのスピーチ」、『ナショナリズム克服への転機——アフリカ・中東を旅するマルコム・Xの手紙』『史料で読むアメリカ文化史 第5巻 アメリカの価値観の変容』（亀井俊介・鈴木健次監修／古矢旬編、東京大学出版、2006年）、46-70頁。
32. 「今『アメリカの世紀』のアメリカとは何かを問う」『アメリカ文明と自画像』（上杉 忍・巽孝之編、シリーズ・アメリカ研究の越境 第1巻、ミネルヴァ書房、2006年）1-13頁。
33. 「冷戦期におけるアメリカ政府の公民権政策と南部白人民主党指導者（Dixiecrats）の国際情勢認識」『戦争と復興——占領と戦後再建の比較社会経済史——（課題番号 16330064）』（平成16年度—平成18年度科学研究費補助金、基盤研究(B)研究成果報告書）2007年3月、79-87頁。
34. 「シェアクロッパーズ・ユニオンの綿摘みストライキ——そのフィールドワークを振り返って——」『横浜市立大学論叢』人文科学系列第61巻第3号、2010年3月11-49頁。
35. 『歴史から今を知る——大学生のための世界史講座——』第10、11章執筆（上杉忍・山根徹也編、山川出版、2010年）174頁。
36. 「ある黒人農民の世界」（北海学園人文学会第3回例会）『人文論集』第47号、2010年11月、109-161頁。
37. 「グローバリゼーションとアメリカの地域コミュニティ、そして国家」（2010年度北海学園大学市民講座、シンポジウム、文化再発見一人間回復の地域づくり、講座(2)）『学園論集』第147号、2011年3月、225-234頁。
38. 「アメリカ合衆国における産獄複合体（Prison Industrial Complex）の歴史的起源——南部囚人貸出制・チェインギャング制のメカニズム——」『北海学園大学人文論集』第50号、2011年11月、1-22頁。

39. 「アメリカにおける『優生政策』の歴史的脈絡」『生命の倫理 3 — 優生政策の系譜』(山本喜代子編, 九州大学出版会, 2013 年 3 月) 3-21 頁。
40. 「アメリカ史の名著 3 点」『歴史評論』757 号, 2013 年 5 月 66-71 頁
41. 「いま, アメリカ黒人史は何を語っているか」『歴史地理教育』No.813, 2013 年 12 月 62-66 頁
42. 「人間の慢心を戒め, 深く大地に根差して」巻頭言『年報新人文』第 10 号, 2013 年 12 月
43. 「本田創造著『アメリカ黒人の歴史 新版』は, なぜ書き直されねばならなかったのか — 拙著『アメリカ黒人の歴史 — 奴隷貿易からオバマ大統領まで』に書かなかったこと」『年報新人文』第 10 号, 2013 年 12 月 38-84 頁

書評

1. 書評, 本田創造著『南北戦争・再建の時代 — 一つの黒人解放史 —』(創元新書, 1974 年)『歴史評論』No.294, 1974 年 10 月, 89-94 頁。
2. 書評, 富田虎男著『アメリカ・インディアン』(雄山閣, 1982 年)『アメリカ学会会報』No.73, May 1984, 9, 12 頁。
3. 書評, 藤岡惇著『アメリカ南部の変貌 — 地主制の構造変化と民衆 —』(青木書店, 1985 年)『歴史学研究』564 号, 1987 年 2 月, 49-55 頁。
4. 書評, ロデリック・ナッシュ著『人物アメリカ史』(新潮社, 1989 年)『週刊読書人』1989 年 7 月 3 日
5. 書評, 大塚秀之著『現代アメリカ合衆国論』(兵庫部落問題研究所, 1992 年)『しんぶん赤旗』1992 年 5 月 11 日
6. 書評, 高賛侑著『アメリカ・コリアンタウン — マイノリティーの中の在米コリアン』(社会評論社, 1993 年)『週刊読書人』1993 年 8 月 30 日
7. 書評, 『講座世界史 5 強者の論理 — 帝国主義の時代 —』(歴史学研究会編, 東京大学出版会, 1995 年)『歴史評論』No.566, 1997 年 6 月号, 56-59 頁。

8. 書評, S・ヤーブロー著『酸素男』(ハヤカワ文庫, 2000 年)『学生新聞』2001 年 1 月 27 日号
9. 書評, 大塚秀之著『現代アメリカ社会論——階級・人種・エスニシティーからの分析』(大月書店, 2001 年), 『歴史学研究』769 号, 2002 年 11 月, 71-74 頁。
10. 書評, Akiko Ochiai, *Harvesting Freedom: African American Agrarianism in Civil War Era South Carolina*, Preager, 2004, 『アメリカ研究』39 (2005 年 3 月), 187-193 頁
11. 書評, 渡辺靖『アメリカン・コミュニティ——国家と個人が交差する場所——』(新潮社, 2007 年)『アメリカ学会会報』No.166, May 2008, 10 頁。
12. 書評, エーリック・フォナー著・森本奈理訳『業火の試練——エイブラハム・リンカンとアメリカ奴隷制』(白水社, 2013 年)『共同通信』2013 年 8 月

その他

1. 共編(上杉 忍, 佐々木能章)『教室からの大学改革——「自分探しの旅」を手助けする教育を目指して』(文葉社, 2004 年 8 月), 249 頁。
2. 高校世界史教科書『世界史 A』(三省堂, 1989-2008 年)共同執筆
3. 「若者の大河のような歴史離れに抗して——横浜市大での授業『歴史から今を知る』の実験から——」『ねざす』42 号, 2008 年, 21-27 頁。

学会報告・コメント・講演

1. 「日本におけるアメリカ研究の発達と現状：アメリカ黒人史研究(コメント)」『アメリカ研究資料センター年報』第 7 号, 1985 年, 70-72 頁。
2. 「世紀転換期におけるアメリカ合衆国南部の人種関係」, 1997 年度アメリカ学会年次大会シンポジウム, 愛知教育大学, 1997 年 6 月 7 日
3. “Share Croppers in the South and Tenant Farmers in Japan,” presented to the Conference, “Japan and African American: A Comparative Perspective,” The Sonja Haynes Stone Black Cultural Center, The University of North Carolina at Chapel Hill,

November 3, 1997.

4. “Comments on Professor James T. Patterson’s Paper, ‘The Post-WWII American History from Perspective of the Post-Cold War Era,’” presented to the Kyoto American Studies Summer Seminar in 1998, August 1, 1998.
5. コメント 大類久恵「公的歴史としての M・L・キング祝日制定への過程」報告, アメリカ史研究会第 192 回例会, 2000 年 11 月 18 日
6. 「黒人とアメリカの戦争」ミニ・シンポジウム「第 2 次大戦後のアメリカのナショナリズム」アメリカ史研究会第 204 回例会, 2003 年 7 月 15 日
7. 「監獄人口の激増とアメリカ社会」アメリカ学会第 43 回年次大会シンポジウム報告, 2009 年 6 月 7 日
8. 西南学院大学国際文化学部講演「アメリカの人種差別主義と優生主義」2010 年 3 月 16 日
9. 北海学園人文学会講演「セオドア・ローゼンガーテン著・上杉 忍・上杉健志訳『アメリカ南部に生きる ― ある黒人農民の世界 ―』(彩流社, 2006 年) 586 頁+18 頁, Theodore Rosengarten, *All God’s Dangers: The Life of Nate Shaw*, Alfred A. Knopf, 1973 から何を読み取るか」2010 年 7 月 23 日
10. 北海学園大学市民講座「グローバリゼーションとアメリカの地域コミュニティ」2010 年 10 月 9 日
11. 東北アメリカ学会, 新書『『アメリカ黒人の歴史 ― ひとつのアメリカ史』(仮題) を書く』2011 年 10 月 1 日
12. 第 21 回 日本アメリカ文学会北海道支部大会「新書『アメリカ黒人の歴史 ― ひとつのアメリカ史』(仮題) を書く』2011 年 12 月 17 日
13. 同志社大学アメリカ研究所秋季公開講演会「『アメリカ黒人の歴史 ― 奴隷貿易からオバマ大統領まで』(中公新書, 2013 年)を執筆して」2013 年 10 月 28 日
14. 日本アメリカ史学会第 28 回例会「アメリカ黒人史の通史を新書で書く

ということ」亜細亜大学 2013 年 12 月 14 日

送る言葉

岩 崎 まさみ

英米文化学科上杉忍教授が2014年3月31日をもってご退職されるにあたり、送る言葉を述べさせていただきます。

上杉先生は静岡大学人文学部、横浜市立大学国際総合科学部を経て、2010年4月に北海学園大学人文学部英米文化学科教授として着任されました。長年、アメリカ合衆国の歴史を研究され、その中でも特にアメリカ黒人史を専門として研究を続けられ、多くの著書を出版されました。北海学園大学では「北米史」や専門演習等を担当され、黒人史に触れる機会の少ない本学の学生たちに刺激的な講義を展開してくださいました。学部の授業に加え、文学研究科での指導にも熱心であり、主査や副査として多くの学生を指導してくださいました。

北海学園大学に着任されて数ヵ月後に、上杉先生は人文学部の教員に向けてご自身の研究に関する報告をしてくださいました。その主題は上杉先生とご長男の健志さんとが共同で翻訳された著書『アメリカ南部に生きる——ある黒人農民の世界』（彩流社）であり、その内容と翻訳過程での出来事、さらにその調査から得られたアメリカ史の新たな視点について話して下さいました。先生の報告を聞きながら、私は上杉先生が主人公である黒人インフォーマントの心に限りなく近づいて行き、その中に入り込んで行こうとする迫力を感じ、先生が個人としての黒人とのつながりを通して、黒人史を捉えようとしていらっしゃることに感銘を受けました。また2013年には先生の研究者としての集大成となる著書『アメリカ黒人の歴史 奴隷貿易からオバマ大統領まで』（中央公論新社）を出版されました。門外漢である私たちにとって、黒人を軸にしたアメリカ史として興味深い読み物である事は言うまでもなく、専門家たちは「四百年にわたる合衆国の繁栄

を支えた裏面の差別史を的確かつ簡潔にまとめた一冊。歩みを振り返るだけでなく、今なお残された課題の指摘も忘れないすぐれた米国史。」とその学術的価値を高く評価しています。上杉先生の研究者としての真摯な姿勢は、私たち後輩研究者の見本であり、生涯一つのテーマにこだわり研鑽を積み、その成果を著書や論文として発信し続けるという研究者としての社会的責任を教えて下さいました。

先生が着任された直後の歓迎会の席で、「この中にアイヌ民族の研究をしている先生はいませんか？」と聞かれ、それ以降何度となく私の友人たちが住む二風谷にご一緒しました。地元の仲間たちと一緒に植林をしたり、山菜取りをしたり、また食事の準備をする中で、私は上杉先生が「優れたフィールドワーカー」であることを確信しました。初めて会う人達の間で作業をするうちに、先生は自然にそれぞれの人たちと打ち解けて行き、あっという間に出身や家庭事情などを語り合っているという光景を何度も目にしました。ある時はアイヌ民族の差別の問題を地元の人たちと、ごく自然に語り合っている様子に、先生の研究者としての真価を見た思いでした。

上杉先生のお宅が近所ということもあり、先生のご家族とも親しくさせて頂き、楽しい思い出は尽きません。先生の長い教員生活の最後の数年を、同僚として一緒にキャンパスで過ごす事が出来た事を幸運に思います。ご退職後も執筆を続けられ、お元気で活躍される事をお祈り申し上げます。